

新古今和歌集

卷第三

夏歌

ほたるとびのぼるを見て、よみ侍りける壬生忠見

いづちとかよるはほたるののぼるらん
ゆくかたしらぬ草のまくらに

五十首歌たてまつりし時

撰政太政大臣

ほたるとぶのざはにしげるあしのねのよ
なよなよしたにかよふ秋かぜ

卷第十七

雑歌中

題しらず

在原業平朝臣

はるる夜の星か川辺の蛍かも

我がすむかたにあまのたく火か

卷第二十
釈教歌

人人すすめて法文百首歌よみ侍りけるに、
二乗但空智如螢火

寂然法師

道のべのほたるばかりをしるべにて
ひとりぞいづるゆふやみのそら

「国歌大観」より